

令和4年度事業報告、貸借対照表、正味財産増減計算書及び附属明細書
並びに財産目録の承認について

事業報告

I. 全体概要

令和4年度の経常収益額（事業収益、受取会費、受取委託料、補助金等の合計）は78,405千円、経常費用額（事業費、管理費の合計）は87,191千円となり、当期経常増減額（経常収益額－経常費用額）は8,786千円の赤字となった。

このうち、種苗販売の収益となる事業収益については、公益事業関係では、らっきょう、テルフィコム、ピーマン台木等の4品目が前年度実績より増収し、かんしょ、いちご、ランキュラス、スイートピー等の5品目が減収した。また、収益事業では、アグリシート委託苗、種子球根とも減収し、全体の事業収益額は52,008千円となり、前年度実績より5,878千円の減収となった。（当初予算比93%、前年度実績比90%）

次に、種苗生産・販売のコストとなる事業費は、賃金、委託費、原材料費、燃料費、光熱水費、技術開発費、雑費等が増額したものの、修繕費、租税公課等が減額したことにより、全体では78,982千円となり、前年度実績より2,577千円の増額となった。（当初予算比109%、前年度実績比103%）

II. 業務別事業実績

1. 管理運営に関する事業

1) 総会

第60回定時総会及び臨時総会を開催し、上程した議案は全て原案どおり承認された。

[総会の開催]

総会	開催日	場所	議案事項
第60回定時総会	令和4年 6月28日	JAビル 503研修室	1. 令和3年度事業報告、貸借対照表等について 監査報告 2. 任期満了に伴う役員改選(案)について(別表-1)
第1回臨時総会	令和5年 3月22日	JAビル 501研修室	1. 令和5年度会費及び納入方法(案)について

2) 理事会

3回の理事会を開催し、総会附議事項等について審議し、附議した議案はすべて原案どおり承認された。

[理事会の開催]

理事会	開催日	場所	議案事項
第1回理事会	令和4年 6月6日	JAビル 501研修室	1. 令和3年度事業報告、貸借対照表等について 2. 任期満了に伴う役員改選(案)について(別表-1) 3. 第60回定時総会の開催(案)について
第2回理事会	令和4年 6月28日	JAビル 503研修室	1. 役付理事の選定(案)について(別表-2)
第3回理事会	令和5年 2月20日	JAビル 501研修室	1. 令和4年度収支予算の補正(案)について 2. 特定資産(積立資産)の取崩(案)について 3. 令和5年度事業計画及び収支予算(案)について 4. 令和5年度の会費及び納入方法(案)について 5. 令和5年度借入限度額(案)について 6. 令和4年度第1回臨時総会の開催(案)について

2) 企画運営委員会

2回の企画運営委員会を理事会に先立ち開催し、理事会附議事項及び報告事項等について協議した。

[運営委員会の開催]

理事会	開催日	場所	協議事項
第1回 運営委員会	令和4年 5月19日	県総合農試 研修棟	1. 令和3年度事業報告、貸借対照表等について
第2回 運営委員会	令和5年 2月13日	県総合農試 大会議室	1. 令和4年度収支予算の補正(案)について 2. 令和5年度事業計画及び収支予算(案)について 3. 令和5年度の会費及び納入方法(案)について 4. 令和5年度借入限度額(案)について

4) 事故査定委員会

かんしょ苗「べにはるか」の徒長苗の発生に関し、積立資産の利用等による購入者への対応(案)について協議し、承認された。

[事故査定委員会の開催]

委員会	開催日	場所	議案事項
事故査定 委員会	令和5年 3月15日	県防災庁舎 72号会議室	1. かんしょ苗「べにはるか」の徒長苗発生の経過報告について 2. かんしょ苗「べにはるか」の徒長苗発生に対する対応(案)について 3. かんしょ「べにはるか」の今後の増殖・生産について

5) 監査

定例の棚卸監査及び帳簿監査が行われた。

監査名	開催日	備考
棚卸監査	令和5年4月1日	令和4年度期末棚卸監査
帳簿監査	令和5年4月25日	令和4年度期末帳簿監査

2. 種苗生産・供給事業

1) 園芸作物の優良種苗の生産及び安定供給

(1) 宮崎県が育成したオリジナル品種の種苗供給

宮崎県総合農業試験場等で育成された野菜・花きの品種等について、宮崎県から許諾を受け、種子の生産及び供給を行った。

① かぼちゃ

黒皮かぼちゃの「宮崎早生1号」等の2品種について、52袋を供給し、供給金額は24万5千円であった。生産が減少傾向にあり、供給金額 \uparrow で、当初計画比79%、前年度実績比68%となった。

② にがうり

「宮崎つやみどり」等の4品種について、1,165袋を供給し、供給金額は512万6千円で、需要の増加により、供給金額 \uparrow で、当初計画比113%、前年度実績比105%となった。

③ ピーマン台木

ピーマン台木は県外からの問い合わせを含め、年々需要が増加している品目で、「みやざき台木5号」等の4品種について、805袋を供給し、供給金額は541万6千円で、供給金額 \uparrow で、当初計画比122%、前年度実績比117%となった。

④ スイートピー

「ムジカリム」等の10品種について、36袋を供給し、供給金額は23万4千円で、需要の増加により、供給金額ベースで、当初計画比では184%となったが、前年度実績比では58%に止まった。

⑤ デルフィニウム

「ペガサス」等の7品種について、136袋を供給し、供給金額は194万円で、需要の増加により、供給金額ベースで、当初計画比171%、前年度実績比115%となった。

(2) 栄養繁殖作物の茎頂培養苗の供給

かんしょ、いちご、らっきょう、ランキュラスの茎頂培養苗を生産・供給した。

① かんしょ

かんしょは基腐病の発生等の影響で、茎頂培養苗の需要が多く、育苗面積を8.5a増反して、「宮崎紅」、「コガネガン」、「べにはるか」等の7品種の挿苗及びポット苗の生産し、取り組んだが、全体供給数は119万4千本(当初計画比79%、前年度実績比84%)で、供給金額は3,036万2千円(当初計画比85%、前年度実績比84%)で、当初計画、前年度実績とも大きく下回った。

次に、ポット苗は供給数、供給金額とも、当初計画、前年度実績とほぼ同等の実績であったが、挿し苗は「宮崎紅」から「べにまさり」等への品種転換や育苗作業の遅れによる苗床の親株数の確保不足等により、供給数は116万1千本(当初計画比78%、前年度実績比84%)、供給金額は2,768万1千円(当初計画比83%、前年度実績比82%)で、当初計画、前年度実績とも大きく下回った。

また、品種別の挿し苗では、「宮崎紅」の出荷本数は前年度実績より約21万本少ない36万9千本、「コガネガン」は当初計画に対し、約13万本少なかったが、前年度実績よりやや少ない62万6千本、「べにはるか」は当初計画、前年度実績並の14万9千本となった。

さらに、次年度のかんしょ生産については本年度の生産工程実績を再点検し、品種作付動向を踏まえ、安定生産に向け、育苗施設及び人員の配置、生産工程及び育苗方法の見直しを行い、取り組むこととする。

② いちご

「さがほのか」等の2品種について、ポット苗で、7,723鉢を供給し、供給金額は260万5千円であり、他品種への転換等による需要の減少により、供給金額ベースで、当初計画比86%、前年度実績比70%となった。

③ らっきょう

「らくだ」の種球について2,237kgを供給し、供給金額は135万3千円であり、需要の増加により、供給金額ベースで、当初計画比109%、前年度実績比102%となった。

④ ラナンキュラス

「ガネット」等の11品種の培養苗及びかぎ芽苗について、鉢苗で、2,244本を供給し、供給実績額は52万8千円で、需要の減少により、供給金額ベースで、当初計画比69%、前年度実績比93%となった。

(3) 優良種苗供給体制整備事業

優良種苗の安定生産技術の確立に向けた試験・実証等について、5品目で実施した。

① かんしょ苗の安定生産技術の確立

省力的な採苗方法とされる一斉採苗は、採苗時間は短縮でき、効率的な方法であるが、採苗後の苗の調整に時間を要することから、現時点では選択採苗をメインに、一斉採苗を保管技術とし

て組み合わせていくが、今後、調整方法の検討を行う。

水耕施設の育苗における水温について、20℃と25℃を比較したが、20℃でも生育及び採苗本数に差はなく、20℃で水温管理することとした。

苗床でのマルチ栽培では無マルチ栽培に比較し、採苗本数が多く、除草効果が高いことから、マルチ栽培へ変更していき、今後はマルチの比較検討を行う。

② ピーマン台木の採種技術の確立

省力的な栽培方法として、コンテナ利用の根域制限栽培と床土袋を利用したパック栽培を比較したが、パック栽培は生育及び着果率が良好で、青枯病防除の観点からも優れることが確認された。今後は、着果率の向上対策として、交配数及び灌水量を検討する。

新品種の「台ひなた」のパック栽培を検討したが、生育及び着果率等、土耕栽培と差がないことから、有効性が確認できた。今後は、本品種の花粉親の花が小さいことから、交配方法の検討を行う。

③ デルフィニウムの採種技術の確立

安定的な交配母本を確保するため、ジベレリンによる種子浸漬処理と播種後の低温管理による親系統の発芽率の向上効果について検討したが、種子浸漬処理、低温管理とも無処理との差はなく、効果は確認できなかった。

挿し芽による母本の確保対策として、挿し芽時の薬剤の検討を行ったが、林パールの2倍10秒浸漬で、腐敗率が低く、有効性を確認することができた。

④ ラナンキュラスの優良種苗の安定生産技術の確立

培養苗及びかぎ芽苗の育苗用土について比較・検討したが、MKK花用培養土100%は粒子が細かく、軽く、扱いやすく、生育及び発根も良く、育苗用土として適していると思われる。

育苗時の培養苗の灌水作業時間の削減を目的に、慣行の1日1回の灌水に対し、2日1回の灌水を検討したが、乾燥による葉枯れが多く見られ、実用性は認められなかった。

培養瓶から苗の鉢上げ段階における照度条件を検討したが、慣行の3,200LUX（蛍光灯3本）に比較し、5,500LUX（蛍光灯4本）の照度条件での生育や苗質等が良好で、光量の増加が必要であることが確認できた。

⑤ スイートピー「紅式部」の採種技術の確立

種子冷蔵期間の延長が採種量の増加に及ぼす影響を検討するとともに、ポット栽培による根域制限と電照を組み合わせた栽培と土耕栽培（慣行）との採種効率について検討している。

（4）かんしょ苗の種苗事故

かんしょ苗において、2件の種苗事故が発生し、対応した。

① 異品種の混入事故

かんしょ苗の育苗ハウス（品種：ガガセガ）に、異品種（品種：宮崎紅）を誤って定植し、混入したまま、令和4年1月～5月に、採苗・出荷する事故が発生した。

混入した苗の出荷先件数、出荷本数は108件、42万7千本で、混入の報告があった件数、混入した株数は31件、792株で、混入率は0.19%であった。

購入者等に対し、品種の見分け方等の情報提供及び現地調査を行うとともに、混入した苗は焼酎原料用及び次作の種芋用として利用されたが、事前に、収穫段階で異品種を仕分けることにより、被害を回避することができ、補償等は出荷時に加えている予備苗（4%）で対応した。

再発防止策として、県GAP等を参考に、育苗・出荷での全工程で、適正な生産工程管理を策定し、各作業のチェック項目を点検し、作業する等に取り組んでいる。

② 「べにはるか」の徒長苗事故

かんしょ苗の「べにはるか」で、初めて、茎が細く、節間が長い等の徒長苗が発生し、令和3年11月～令和4年6月に出荷する事故が発生した。

徒長苗の出荷先件数、出荷本数は194件、16万8千本で、徒長苗を定植した圃場では、地上部の生育が旺盛となり、芋が入らない、芋個数が少ない等の減収が確認された。

購入者等に対し、徒長苗のDNA鑑定結果(べにはるかで品種の間違いではない)及び次年度の種芋としての利用は控える等の情報提供及び現地調査を行った。

次年度、種芋等の利用を考えている等で、センターに相談にあった件数は66件で、購入者の作付状況及び苗の利用目的等に応じて、令和5年6月を目処に、徒長苗の対応策(①次期作分の苗を無償提供する、②購入した苗の代金の返金、③種芋購入にかかる掛増経費の支払い)を提案・協議し、取り組んでいる。

発生原因は調査中であるが、再発防止策として、親苗を変更して、新たに県外から茎頂培養苗を購入し、苗を生産しており、現時点で徒長苗等の生育不良はなく、現地での育苗における異常の報告はない状況にある。

(5) 優良系統・品種の親株保存管理

県育成品種で、現在普及中の品種・系統及び遺伝資源としての利用の可能性のある品種・系統を将来の活用に備え、保存・管理しており、野菜2品目4品種、いも類1品目12品種、花き3品目21品種の優良親株の保存管理を行った。

[優良親株の保存管理]

作目	品目	品種	導入先	導入年	保存形態
野菜類	いちご	とよのか	宮崎市	平成5年	フラスコ苗
		みやぎきなつはるか	県総合農試	平成25年	
		こいはるか		平成29年	
	らっきょう	らくだ	都城市	平成2年	
		らくだ		平成5年	
いも類	かんしょ	宮崎紅(A-3)	県総合農試	平成18年	フラスコ苗
		宮崎紅(O-61)		平成24年	
		宮崎紅(T-15)		平成29年	
		ことぶき	宮崎市	平成8年	
		コガネガン、アヤマサキ	県総合農試	平成24年	
		べにはるか、ジョイホワイト			
		ムラサキマサリ			
		コガネマサリ			
		タマアカネ			
		ススコガネ			
	べにまさり、みちしずく				
AS(べが親)	綾町	平成18年			
ランキュラス		ガーネット	平成18年		
		ラスベリル	平成20年		
		ローズクォーツ	平成21年		
		サンキュラス・オレンジ、サンキュラス・ホワイト、サンキュラス・シュガー、サンキュラス・パールピンク	平成22年		
		フェアン、ちほの詩	平成27年		
		オレンジ・シャルロット、キティラ、ディーンユ、ポムロール	平成29年		

		サンキュラス・ピコホワイト、モロコ赤①、モロコパターナル①、モロコ白ピコ②	県総合農試	令和4年	
スプレーカーネーション	ローロ		綾町	平成19年	鉢苗(親株)
	ローロレッド、ローロピコ		県総合農試		

(注) 保存株は令和5年3月31日時点で、保存しているものを示す。

2) 野菜苗の受託育苗

ハウス施設の有効利用等を図るため、7月～10月主体に、野菜苗(ピーマン、なす、きゅうり)の中間育苗をジェイエイ・アグリネット(株)から受託して取り組んだ。受託本数は6万本、受託金額は333万2千円で、受託金額ベースで、当初計画比101%、前年度実績比99%となった。

[野菜苗の受託数量]

ピーマン:31,625鉢、きゅうり:16,649鉢、なす(佐土原なすを含む):11,816鉢 計60,090鉢

(別表-1)

任期満了に伴う役員改選について

1. 内容

1) 理事

現職 (令和2年6月定時総会から令和4年6月定時総会まで)		備考	改選(案) (令和4年6月定時総会から令和6年6月定時総会まで)	
氏名	勤務先役職名		氏名	勤務先役職名
坂下 栄次	JA宮崎経済連代表理事会長	会長理事	坂下 栄次	JA宮崎経済連代表理事会長
牛谷 良夫	前県農政水産部長	副会長理事	久保 昌広	県農政水産部長
林 嘉孝	ハイクセンター所長	常務理事	林 嘉孝	ハイクセンター所長
東 洋一郎	県総合農業試験場長		東 洋一郎	県総合農業試験場長
伊東 功一	西都市農林課長		伊東 功一	西都市農林課長
佐藤 峰史	高千穂町農林振興課長		佐藤 峰史	高千穂町農林振興課長
栗原 俊朗	JA宮崎中央代表理事組合長		栗原 俊朗	JA宮崎中央代表理事組合長

2) 監事

現職 (令和2年6月定時総会から令和4年6月定時総会まで)		備考	改選(案) (令和4年6月定時総会から令和6年6月定時総会まで)	
氏名	勤務先役職名		氏名	勤務先役職名
和田 利男	JA宮崎経済連常勤監事		和田 利男	JA宮崎経済連常勤監事
島村 幸広	宮崎市農政部長		島村 幸広	宮崎市農政部長

(別表-2)

役付理事の選定について

1. 内容

役職	理事 (令和4年6月定時総会から令和6年6月定時総会まで)	
	氏名	勤務先役職名
会長理事	坂下 栄次	JA宮崎経済連代表理事会長
副会長理事	久保 昌広	県農政水産部長
常務理事	林 嘉孝	ハイクセンター所長